

重症心身障害児・者における安楽なポジショニングの評価

国立病院機構東埼玉病院では、表記の研究を行っております。

1. 実施目的について

現在当病に入院中の重症心身障害児・者において実施しているポジショニングが患者にとって安楽なものであるかを明らかにする

2. 実施内容について

①現在実施のポジショニングを各患者が日常行っている体位の中から3パターンを選択し、緊張の程度、心拍数、動脈血酸素飽和度値、呼吸回数を測定する。また、実施した時間と自由記載で他に介助者が判断し、実施したこと、アセスメントしたことなどを記載してもらう。

②評価方法：体位変換直後は患者の一過性反応があると考えるために避け、体位変換の15分後、30分後の2回緊張の程度、動脈血酸素飽和度値、心拍、呼吸回数を測定する。なお、腹臥位の実施の場合は腹臥位実施の目安が10分間のため、10分後に測定する。

3. 研究期間

研究実施の許可日から平成26年3月31日

1患者において20日間の間測定の実施をする

4. 研究責任者

小林 智春（独立行政法人国立病院機構東埼玉病院 3階北病棟 看護師）

5. 個人情報及びプライバシーの保護について

この研究では対象者に安楽なポジショニングに関する援助を実施します。なお、研究で実施する「緊張の程度、心拍数、動脈血酸素飽和度、呼吸回数」の測定は、いずれも日常診療で実施している物であり、またいずれも侵襲性のないものです。

個人が特定されるような情報に関しては一切使用しません。この研究についてご質問がある時は、上記の研究者までお問い合わせください。また、この研究に参加されたくない方は上記の研究者もしくは病棟看護師長にお申し出ください。研究への参加は患者様・ご家族の自由意思に基づき、参加されなくても不利益を被ることはありません。